

「国宝松本城を世界遺産に」

世界遺産フォーラムin松本



日時 平成26年2月22日(土)午後1時30分～

場所 Mウイング 6Fホール

主催 「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会
共催 信濃毎日新聞社
協力 逞（つよ）い文化を創る会



「国宝松本城を世界遺産に」

世界遺産フォーラム in 松本

～世界遺産登録に向けて地域社会に求められるもの～

プログラム

1 開会

2 あいさつ

3 基調講演Ⅰ「世界遺産の現状と課題」

講師 松浦 晃一郎先生（第8代ユネスコ事務局長）

4 基調講演Ⅱ「城と天守の歴史・様式・技術」

～松本城・彦根城・犬山城を世界遺産に～

講師 麓 和善先生（名古屋工業大学大学院教授）

5 パネルディスカッション

テーマ：「世界遺産登録に向けて必要なものとは」

コーディネーター：西村 幸夫先生（日本イコモス国内委員会委員長）

パネリスト：松浦 晃一郎先生（第8代ユネスコ事務局長）

麓 和善先生（名古屋工業大学大学院教授）

岩槻 邦男先生（東京大学名誉教授）

五十嵐敬喜先生（法政大学教授）

矢野 和之先生（日本イコモス国内委員会事務局長）

6 閉会

基調講演 I

《講師プロフィール》

松浦 晃一郎（まつうら こういちろう）氏

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）第8代
事務局長

1937年山口県生まれ



○来歴

- ・1959年 外務省入省
在アメリカ大使館参事官、大臣官房審議官、香港総領事、経済協力局長、北米局長、外務審議官などを経て1994年、駐フランス大使
- ・1998年～1999年 世界遺産委員会議長
- ・1999年 日本人としては初めて（アジアからの選出としても初）のユネスコ事務局長に就任。中部大学中部高等学術研究所客員教授
- ・経済の専門家として知られ、仏文学にも精通
- ・2009年11月14日にユネスコ事務局長を退任（2期10年の在任）

○主な著書

- 『アフリカの曙光ーアフリカと共に50年』かまくら春秋社
- 『世界遺産ーユネスコ事務局長は訴える』講談社
- 『ユネスコ事務局長奮闘記』講談社
- 『援助外交の最前線で考えたこと』国際協力推進協会
- 『歴史としての日米関係・日米同盟の成功』サイマル出版
- 『先進国サミット・歴史と展望』サイマル出版

○賞勲

- フランスレジオン・ドヌール勲章グランド・オフィシエ賞受賞（2009年）
- ロンドン大学教育学研究所名誉博士号

《講師プロフィール》

麓 和善（ふもと かずよし）氏

名古屋工業大学大学院 教授 工学博士

1956年香川県生まれ

名古屋工業大学大学院修士課程建築学専攻修了

財団法人文化財建造物保存技術協会を経て、現職



専門は建築史・文化財保存修理

特に日中古典建築書、煎茶席、日本城郭史、日本伝統建築構法の研究

岐阜県文化財保護審議会委員、山梨県文化財保護審議会委員、文化財石垣保存技術協議会評議員、竹中大工道具館評議員などをつとめ、彦根城、犬山城、安土城、小牧山城、岐阜城、名古屋城、金沢城、鳥取城、甲府城、長浜城、興国寺城等、全国の史跡整備や文化財修理に委員として参画。

○主な著書

『城の日本史』講談社学術文庫、共著

『復元日本大観1 城と館』世界文化社、共著

『日本建築古典叢書9 近世建築書 絵様雛形』大龍堂書店

『旧豊田喜一郎邸』トヨタ自動車

『日本産業技術史事典』思文閣、共著

『茶道学大系6 茶室・露地』淡交社、共著

『金沢東照宮(尾崎神社)の研究』金沢城研究調査室、共著

○主な修理建造物

重要文化財函館ハリストス正教会復活聖堂

重要文化財東光寺鐘楼・三門・総門

旧豊田喜一郎邸 蓮教寺本堂・山門 登録有形文化財小栗家住宅

南知多町指定文化財尾州廻船内海船船主内田佐七家

多治見市有形文化財甘原神明神社本殿

パネルディスカッション

○コーディネーター

- ・西村 幸夫（にしむら ゆきお）氏

日本イコモス国内委員会委員長

1952年、福岡市生まれ 東京大学教授

文化庁文化審議委員、同世界遺産特別委員会委員長

専門は都市計画、都市保全計画、都市景観計画

『西村 幸夫 風景論ノート』（鹿島出版会）『都市保全計画』（東大出版会）など著書多数



○パネリスト

- ・松浦 晃一郎（まつうら こういちろう）氏 本日講師

第8代ユネスコ事務局長

- ・麓 和善（ふもと かずよし）氏 本日講師

名古屋工業大学大学院教授

- ・岩槻 邦男（いわつき くにお）氏

東京大学名誉教授

1934年兵庫県生まれ

兵庫県立人と自然の博物館名誉館長、世界自然遺産候補地の考え方に係る懇談会座長。日本人の自然観にもとづく地球の持続性の確立に向けて積極的に発言している。

1994年日本学士院エジンバラ公賞受賞。2007年文化功労者

- ・五十嵐 敬喜（いがらし たかよし）氏

法政大学法学部教授、弁護士

1944年山形県生まれ

専門は都市政策、立法学、公共事業論。近年、災害復興の切り札として期待される制度的、思想的概念「現代総有論」を提唱し、みんなで共同して土地・海面・森林、都市などの地域資源を利用し、その恩恵・利益を地域全体に還元していくことをめざす。

- ・矢野 和之（やの かずゆき）氏

日本イコモス国内委員会事務局長

1946年熊本県生まれ

修復建築家。(株)文化財保存計画協会代表取締役。

文化財建造物修理、遺跡保存整備、歴史を生かしたまちづくりなど、国内外のプロジェクトに参画。『空間流離』（建知出版）など著作や報告書多数。



『世界遺産フォーラム in 松本』の様子

基調講演Ⅰ 「世界遺産の現状と課題」



講師

松浦 晃一郎先生 (第8代ユネスコ事務局長)

基調講演Ⅱ 「城と天守の歴史・様式・技術」

～松本城・彦根城・犬山城を世界遺産に～



講師

麓 和善先生 (名古屋工業大学大学院教授)

パネルディスカッション

テーマ：「世界遺産登録に向けて必要なものとは」



コーディネーター：西村 幸夫先生（日本イコモス国内委員会委員長）

パネリスト：松浦 晃一郎先生（第8代ユネスコ事務局長）

麓 和善先生（名古屋工業大学大学院教授）

岩槻 邦男先生（東京大学名誉教授）

五十嵐敬喜先生（法政大学教授）

矢野 和之先生（日本イコモス国内委員会事務局長）

今回のフォーラムは、姫路城に加えて、彦根城・松本城・犬山城の三城を世界文化遺産とするために、これらの近世城郭の「顕著で普遍的な価値」を正面から考えることをめざしております。

われわれ日本人にとって、お城とはどういう存在だったのか、そしてそれは日本の歴史とどのように関わっているのか、城郭の建物としての価値はどこにあるのか、さらに日本の城郭の世界での位置付けはどうなのか等についてパネルディスカッションしていただきました。

